

Z会東大進学教室

高2 難関大英語 S

高2 難関大英語



# 1章

## 問題

### 【1】

#### 解答・解説

(1) had died

「過去のある時点より～前」を表すには過去完了を用いる。「(ボブを訪問した時点より) 3年前に彼は亡くなっていた。」ということになるから、過去完了にする。

(2) was taking

「シャワーを浴びていたら携帯電話が鳴った〔携帯電話が鳴った時私はシャワーを浴びていた〕。」過去の進行中を表す。

cf. S was ...ing [was about to do] when SV. 「Sが...していた〔しようとしていた〕その時S V」

(3) drinks / drank

日常的な行為は現在形で表すが、今日行なった事実は過去形となる。

(4) has been suffering

「先週以来」とあるため現在完了形にする。また動作の継続を表す場合は進行形にする。

○ pneumonia 「肺炎」

(5) will have completed

「来年のこの時期までに完成してしまっているだろう。」と未来の時点での完了を表す形にする。

(6) stays

一般的、普遍的な内容は現在形で表す。

(7) has been courting / has not proposed

現在まで2年間継続している行為なので現在完了進行形にする。現在まで行われていない行為は現在完了形にする。

○ court 「言い寄る；求愛する」

### 【2】

#### 解答・解説

(1) d

「スティーブンは休暇中です。彼はパリに行きました。」

○パリに行ったのは過去のはずである。has been to ～は「～へ行ったことがある」「～へ行ってきたところ」の意味のため不可。visitは他動詞のためtoと共に用いることはできない。

(2) **b**

「もし注文した製品が明日までに届かなかったら私たちにお知らせください。」

- by tomorrow 「明日までに」とあるので未来の時点での完了を表すが、「時・条件を表す副詞節では未来（完了）の事柄も現在（完了）で表す」という決まりがある。

(3) **b**

「あなたの夢が実現する時が来るでしょう。」

- when は関係副詞で time を先行詞とする形容詞節となるため未来表現を用いればよい。

(4) **c**

「マイケルは妻が来るまで玄関で待とうと決めた。」

- 妻が来るのも過去の話であるから **c** came で良い。

(5) **d**

「私たちの誕生日プレゼントを気に入ってくれると良いのですが。」

- 未来のことなので will を選ぶ。意味内容から考えて、**b** 「…することになっている」や **c** 「…する予定である」は選びにくい。**a** の be going to do は、予め決まった未来を表し、「…するつもりである」等の意味になるため文意にそぐわない。

(6) **c**

「最近トーマスと会った?」「いいえ、でも土曜日に彼とランチをするわ。」

- 最近会っていないが土曜日にランチをするというのは、近い未来のことを表している。そのため、「近い未来の計画、予定」などを表す現在進行形を選ぶ。

(7) **d**

「少し休んだらどうなの? 最近働きすぎですよ。」

- lately 「最近」は現在完了を伴うことが多い（過去時制とも用いることがある）。
- cannot have done は「…したはずがない」という意味になるため本問では不可。

(8) **a**

「その頃までに地震はおさまっていたが、村人たちはまだおびえていた。」

- by the time (that) SV 「SがVする頃までには」の形ではないことに注意。
- by that time で「その頃までに」という前置詞句となり、the earthquake 以降は主節となる。

### 【3】

#### 解答・解説

(1) It / since / have passed / married her / ago

「彼が彼女と結婚して5年になる。」

(2) not be long / gets

「彼女はまもなくこの困難を乗り越えるでしょう。」

- It will not be long before SV (現在形) 「まもなく～」

(3) not until / that

「私たちの夕食が終わって初めて彼女が入ってきた。」

- It is not until A that B 「Aになって初めてB」

(4) You / not seen

「全然見かけなかったね。」

○ stranger 「見知らぬ人」

(5) had intended

「今日までにクリスマスカードを送るつもりだったのだが、まだ書き忘れたことがある。」

○ hope / expect / think / intendなどを過去完了で用いると、希望・意図などが実現しなかったことを表す。

#### 【4】

A.

**解答**

(1) 「全訳」参照。

(2) ㉔

**解説**

(2) The chances are very good that he'll be fired. (彼が解雇されるという可能性はかなり高い。)

○ that は The chances の同格節を導く接続詞。

㉑ 前の文の内容を指す指示代名詞。

㉒ movement を先行詞とする関係代名詞。

㉓ the news の同格節を導く接続詞。

㉔ gold を先行詞とする関係代名詞。

**全訳**

「ラッシュ」という言葉には、あまりにも性急に動いたり、何かをしたりするという考えが含まれている。だから、この言葉は、1848年の1月、カリフォルニアのサクラメントヴァリーで金が発見されたというニュースが広まった時、アメリカに起こった奇妙な動きを見事に描写しているのである。この動きは異常な移住であった。彼らの訪れを待ってそこに横たわっているはずの金を掘り出しに殺到した人々は、みな男性であった。

B.

**全訳**

㉑我々の両親でさえ可能だと信じなかったであろうような、また彼らの多くは驚いて凝視したであろうような世界が、科学技術によって作り上げられたということに我々は皆、気がついている。この新しい世界のほとんどの事について、あまりに完全に当然のことと思込んでいるので、我々は何の問いかけもせず、ただスイッチを回したり、電話をかけたり、ジェット機に乗ったりし、もちろんそれらの目新しさや、㉒それらがどのように機能するのか、またどのようにしてできたのかを、実際にはほとんど何も知らないという事実にも、はっきりとは気づいていない。

C.

全訳

私はマイクに会わないように通りを横断したが、マイクは私を見て駆けよってきた。彼に気づかないふりをして無駄だったので、私は彼に手を振った。マイクと会っても私は決して楽しくない。

【5】

解答

(1) a × (本文の0.5に making new friends とある。)

b ×

c ○

d ○

(2) 「全訳」の下線部①, ④参照。

(3) 転学, 中退者, 大学から消えてしまうものがある。(23字)

(4) ③ this college

⑤ undergraduates

⑥ self-discipline

(5) 大学当局は生徒たちが大学生活をうまく送れるようさまざまな方法を採用しているが、成功している大学もあれば、失敗している大学もある。

(6) 約50%

(7) can / The

全訳

多くの大学新入生は、大学生活というものの理想を持ってキャンパスにやって来る。我々が調査した、大学へ進学を希望している高校3年生のうち85%は、大学で学業をうまくこなすと同時に「たくさんのおもしろい教科外活動」をすることができると思っていた。約半数は、大学生は毎週末パーティに出かけると信じていた。そして、92%が、大学へ通うことの楽しみの半分は新しい友人を作ることにある、という考えを持っていた。学問の面では、大半の意欲的な学生は、①大学の教育は高校の教育よりも優れていて、高校のときの2倍は熱心に勉強しなければならないだろうと思っている。

どんな理由であれ、いったん大学に入ると、うまく適応できない学生はあまりにも多い。もっともらしい理由をつけて転学したり、復学を考えて中途退学する者もいれば、「大学への帰属感覚、あるいは一体感」に欠けるという理由で、キャンパスを去っていく者もいる。ある若い女性はこのように言った。「どういうわけか、この大学は、必ずしも私が思い描いていた通りではありません。だから、ここではあまり満足はしていないのです。週末に自宅に帰ると、戻ってきたいとは思わないのです。どうしてかはよくわかりませんが、たぶん、この大学は私が望んでいたほどには違っていません。カリキュラムがずっと大変なだけの、名門高校のようなものです。」

④新入生は、大学に慣れ、うまくやっていきたいという強い欲求を持っている。すでに知っていることも新しいこともなんとかやりくりし、できるだけ臨機応変にこなすのである。大学

当局への質問はこうだ。自分でおかした過ちから大学生を守ってやるべきか、それとも、自己鍛錬とは、それが欠けているために苦しむことによるのみ身につくものなのか、ということである。我々が訪問したうちのいくつかの大学は、意図的に、いちかばちかやらせてみる方法を採用している。また、初期のうちから、大学での生活の習慣や伝統に学生を順応させようと一生懸命の大学もある。成功する大学もあれば、失敗する大学もある。

**注**

- ℓ. 1 ◇ undergraduate 「(大学の) 学部の学生」  
cf. postgraduate (大学院生)
- ◇ idealized cf. idealize = imagine or represent (something or someone) as perfect or as better than reality 「理想化する」
- ◇ view = a personal opinion, belief, idea, etc., about something
- ◇ college 「大学」
- university (総合大学) の学部を表すこともある。
- ℓ. 2 ◇ college-bound 「大学進学希望の」
- -bound は「～行きの；～を目指す」という意味を表す。
- ◇ senior = a student in the last year of a school or university course
- この場合は「高校3年生」
- ◇ survey = try to find out information about opinions or behavior of many people, usually by asking them a series of questions
- ◇ do well = succeed or improve
- ℓ. 3 ◇ still = nevertheless
- ◇ social cf. society 「社会」の形容詞形
- ◇ activity 「活動」
- ℓ. 4 ◇ party ここは「パーティをする；パーティへ出かける」という意味の動詞として使われている。
- ◇ agree = have or share the same opinion, feeling, or purpose
- ◇ half the fun = half of the fun
- このように名詞が後に続くときは of は省略可能。代名詞が後に続くときは省略できない。
- Ex. Half of them attended the meeting with the client.*
- ◇ the fun of ~ 「～の楽しみ」
- ℓ. 5 ◇ on ~ side 「～の面では」
- side = a part to be considered, usually in opposition to another; aspect
- ◇ academic = concerning teaching or studying, especially in a college or university 「学問の」
- ◇ prospective = would-be 「～になる予定の；見込みのある」
- ℓ. 6 ◇ and that, … : この that は believe に続く。
- ℓ. 7 ◇ twice as hard as ~ 「～の2倍一生懸命に」
- twice = two times

- ◇ they did
  - この did は worked の代わりに使われている。
- ℓ. 8 ◇ For whatever reason 「どんな理由であれ」
  - ◇ once ~ = from the moment that ~
  - ◇ make adjustment 「順応する」
    - adjustment = a change in a person's behavior or thinking
- ℓ. 9 ◇ satisfactory = good enough for a purpose, rule, standard, etc.
  - ◇ transfer = move officially from one place, job, thing, etc., to another
  - ◇ drop out = stop attending or taking part
- ℓ. 10 ◇ drift 「漂流する；吹き流される」 ここでは比喩的な意味で使われている。
  - ◇ an absence of ~ 「～がないこと」
  - ◇ a feeling of belonging 「居場所があると思えること」
- ℓ. 11 ◇ fit in 「適合する」 これも belong に近い意味である。
  - ◇ institution = a large society or organization, usually set up to do something for others ここでは college のこと。
- ℓ. 12 ◇ not exactly = not really 「必ずしも～ではない」 部分否定。
  - ◇ what I had pictured 「私が思い描いていたもの」
    - 過去完了形に注意。 picture = imagine
- ℓ. 13 ◇ I'm not excited to *do* 「…したいと思わない」
  - ◇ I'm not sure = I don't know
- ℓ. 14 ◇ seem like … 「…のように思える」
  - ◇ glorified *cf.* glorify = cause to appear more important than in reality
  - ◇ a lot = much 比較級を強めている。
- ℓ. 15 ◇ curriculum = a course of study offered in a school, college, etc. (カリキュラム)
- ℓ. 16 ◇ urge = a strong wish or need
  - ◇ (be) acquainted = have knowledge
  - ◇ get along = get by = continue one's way of life
  - ◇ juggle 「巧みにさばく；こなす」
- ℓ. 17 ◇ improvise = make or do something using whatever one has or without having planned it in advance
  - ◇ as best = in the best way
- ℓ. 18 ◇ protect = keep safe (from harm, loss, etc.), especially by guarding or covering
  - ◇ self-discipline = the training of oneself to control one's habits and actions (自己鍛錬)
- ℓ. 19 ◇ suffer = experience (something painful)
  - ◇ consequence = something that follows from an action or condition; result (結果)
  - ◇ its absence = absence of self-discipline
  - ◇ deliberately *cf.* deliberate = intentional; on purpose
- ℓ. 20 ◇ follow a sink-or-swim approach 「～の方法を採る」

- sink or swim = fail or succeed without help from others (のるかそるか)
- approach = a manner or method of doing something
- ◇ Others = Other institutions
- ◇ acclimate = acclimatize = cause to become accustomed to new conditions and places (順応させる)
- ◇ ritual = a way of behaving or a series of actions which people regularly carry out in a particular situation, because it is their custom to do so

ℓ. 21 ◇ tradition 「伝統」

## 【6】

### 解答

- (1) **c**            (2) **c**            (3) **a**            (4) **d**            (5) **b**  
 (6) **d**            (7) **c**            (8) **a**            (9) **b**            (10) **c**

### 解説

- (1) 「1年前から現在に至るまでずっと入院している」ということだから、現在完了形にする。
- (2) 現在完了は、「過去との関わりを示しながら現在のことについて述べる」用法なので、明らかに過去を示す語句と共に用いない。したがって、過去形の **c** を選ぶ。
- (3) 「今までずっとどこにいたのですか。」の意の決まり文句。  
 ○ while *n.* = a period of time, especially a short time
- (4) 前置詞 by は「～までには」の意なので、by Next Friday は「今度の金曜日（まで）には」となる。「～（まで）には…してしまっている、…していることになる」という内容を表す未来完了を用いる。
- (5) 「財布を忘れてきた」のは noticed 以前のことなので、過去完了を用いて、I noticed I *had left* my wallet behind とする。なお、wallet は「男性用の財布」のことで、purse と言うと「女性用のハンドバッグ」のことを指す。
- (6) 「イギリスへもう1度行くと、4回行ったことになる」  
 ○ 「4回目」は未来のことなので、「未来における経験」を表す未来完了形を用いる。
- (7) 「彼はいつもはボストンに住んでいるが、今はロンドンに住んでいる」  
 ○ live は状態動詞なので、普通は進行形にしない。ただし、「一時的な状態」を述べる場合は進行形で用いることがある。ここでは「一時的な居所」を表しているので、現在進行形にする。
- (8) 「彼女は25歳の時にその本を一度読んだことがある」  
 ○ 「…したことがある」と訳せるから現在完了形と考えた人は、根本的なところで誤解している。when 以下が過去の一時点を表しているので、(2)と同様の理由で現在完了形は用いられず、過去形にする。
- (9) talking が続く疑問文なので **b** か **d** のいずれかとなるが、at that time という過去の時点を表す語句があるので、過去進行形となる。
- (10) 時・条件を表す副詞節では単純未来は用いず、現在形で代用する。したがって、**c**



を選ぶ。なお、より自然な英語にすると、we will give up the plan *to go* there となる。また、give up going there とすると、「そこに行く」という行為がすでに行われていて、それを中断することを意味するのに対し、give up the plan to go there [the idea of going there] とすると、まだ実行していない行為を中止することを表す。

## 【7】

### 解答・解説

- (1) but if he will come → but if he comes [if he does come]  
「彼が来るかどうかは分からないが、もし来たら私たちは嬉しいです。」
- (2) have you sent → did you send  
○過去の一時点を表すため過去形にする。
- (3) has visited → visited  
○外務大臣が韓国を訪れたのは過去のことである。  
「韓国との関係は、わが国の外務大臣がその国を訪れた5月以来、徐々に改善していった。」
- (4) did not see → had not seen  
「先週まで10年間会っていなかった」のだから過去完了にする。

## 【8】

### 解答・解説

- (1) May is always imposing her absurd ideas on everyone she knows.  
○be + always + ...ingで「…ばかりして」という軽い非難を表す。
- (2) Recently there has been more interest in studying abroad among college students.  
○いわゆる There (is) 構文を現在完了にする。
- (3) My parents moved to this town two months before they got married.  
○～ months before S V 「SがVする～ヶ月前に」

## 2章

### 問題

#### 【1】

##### 解答・解説

(1) I wish I hadn't told you.

「言わなければよかった。」

(2) If I knew her mail address, I could e-mail her personally.

「メールアドレスを知っていれば、個人的にメールができるのに。」

(3) I would have been seriously injured if I hadn't been wearing a seatbelt.

「シートベルトをしていなければ、重傷を負っていただろう。」

(4) I could go out if I hadn't had my purse stolen yesterday.

「昨日財布を盗まれていなかったら（今日）外出できるのに。」

○時制がずれていることに注意。

#### 【2】

##### 解答・解説

(1) rains [snows / hails / storms など]

「もし明日雨（雪、ひょう、嵐など）になったら行かないです。」

○直説法の条件節の問題。3単現のsを忘れないように。

(2) unless

「駅まで走らない限り、列車に乗り遅れてしまいますよ。」

○ unless SV 「SがVしない限り」

(3) If

「もし私が鳥ならばなあ。」

○ If only = I wish

(4) that

「もしあなたがクローン人間だったら、自分についてどう思うでしょうか。」

○このthatは省略可能。Suppose (that) SV = Supposing (that) SV = Providing (that)

SV = Provided (that) SV 「もしSがVなら〜。」本問のようにsupposeとsupposing

は仮定法の条件としても使用されるが、providingとprovidedは直説法の条件節を導く。

(5) Had / not been for ( If / hadn't been for )

「もしあなたの助けがなかったら、深刻な過ちを犯していただろう。」

(6) Had

「もし若い時に一生懸命勉強していたら、今頃は幸せな暮らしを送っているだろう。」

○条件節は昔の事柄のため仮定法過去完了になるが帰結節は現在の事柄のため仮定法過去になる。

(7) Should

「万が一、その企業が破綻すれば、世界経済への影響は深刻なものになりかねないでしょう。」

- If S should ... = Should S ... 「万が一～なら」

(8) Were

「万が一、インターネットが消滅したら、日本は昭和の時代に戻ってしまうだろう。」

- If S were to *do*, 「万が一～なら」

(9) were

「彼はいわば歩く辞書だ。」

- as it were = so to speak 「いわば」

(10) went

「あなたの子供はそろそろ寝る時間でしょう。」

- It's (high) time (that) の後には仮定法過去が来る。

(11) if [though]

「まるで違う惑星に来てしまった感じがした。」

- as if SV = as though SV 「まるでSがVであるかのように」 SVには直説法だけでなく仮定法も来る。

(12) who

「その財産を相続することをあてにしているのなら、全くの愚か者であろう。」

- who の先行詞は He であり、who 以下が条件部の役割をしている。

(13) A

「もう少し注意していたら、その重大事故は防げたであろう。」

- 主語に条件が含まれている。With a little more care, you would have prevented the serious accident. の形と区別すること。

(14) to

「もし彼女がフランス語を話すのを聞いたら、あなたは彼女を外国人だと思うでしょう。」

- to hear her speak French に条件が含まれている。

(15) would

「毎日故障する機械ならば役に立たないでしょう。」

- 関係詞節に条件を含む。

(16) heard

「たとえ針が落ちたとしても聞こえたかもしれないくらい静かだった。」

(17) otherwise [or]

「私たちは早く家を出た。さもなくば劇場で良い席を得られなかっただろう。」

- otherwise 「さもなくば」という意味で仮定法の条件になる。or にも同じ用法がある。

(18) should

「私は彼に、借りたDVDを返してくれるよう強く言った。」

- demand のような提案・要求を表す動詞や必要性・重要性を表す形容詞の後には（米）では仮定法現在の形が来るが（英）では should を用いることが多いとされる。本文章は（英語）となる。

(19) be

「会議は来月まで延期されることが提案された。」

- suggest も提案を表す動詞であるからその内容を仮定法現在で表す。本問は（米語）である。

(20) come

「父親が入ってくるといけないので、彼女はドアに鍵をかけた。」

- lest や for fear の後にも仮定法現在（米）ないし should（英）を用いる。lest は固い表現なので英作文では for fear や in case, もしくは so that S may not …等を用いたほうが良い。

### 【3】

#### 解答・解説

(1) b

「たとえ私が彼女の国に行っていたとしても、ともかく彼女に会えたであろう可能性はほとんどなかった。」

- 条件節が過去完了であることから考える。

(2) c

A：「今朝会議に行くの遅れちゃった。」

B：「ああごめん。もし行くと知っていたら車に乗っていったのに。」

- 条件節は過去完了形である。give A a ride 「車に乗せる」

(3) b

A：「英語の先生はどんな感じでしたか。」

B：「もし彼の助けがなかったら、高校を卒業できなかっただろうね。」

- What “was” とあるため昔の事柄であることに注意。

### 【4】

A.

#### 全訳

ロサンゼルス発ボルティモア行きワールド航空の100人の乗客にとって、5時間の平穏無事なフライトとなるはずだった飛行機の旅が、29時間の苦しい体験となった。エンジンの故障と両海岸の霧のために、今日の早朝まで到着が遅れたためである。怒った30人の身内や友人たちは、ボルティモア・ワシントン国際空港で今朝早く、ボルティモア着の乗客の到着をまだ待っていた。

B.

#### 全訳

年齢にかかわらず、あなたは時間の進行を遅らせるためにはできる限りのことをしたい、  
と思っていることに疑いはない。いかにうまく年をとるかを決定する際に、遺伝的要素が大きな  
役割を果たす一方、食べ物も同様に大切である、という科学的証拠が増えている。特定の食べ物や栄養補助食品を定期的に摂取することによって、しわとか、乾いた皮膚といった老化の

兆候を抑えたり，その現れを防ぐことのできる可能性さえある。いつ始めても，遅過ぎるということはない。

C.

**全訳** .....

我々の大部分が，日光を必要とするのと同じように称賛を必要とすること，そして称賛を得る手段として女性は男性よりもはるかに美しさに頼るということは否定できない。

## 【5】

**解答** .....

(1) 「全訳」の下線部①～③参照。

(2) **ア** to            **イ** for            **ウ** whose        **エ** with  
**オ** to            **カ** to            **キ** to            **ク** of

(3) 過去においてはテレビを見ることは皆が集まって楽しむ活動であったが，現在ではテレビが複数ある家も多く，家族は世代ごとに別々の部屋で別々の番組を見ている。

**解説** .....

(1)

①◇ Their idea of ～ 「～についての彼らの考え」

◇ may have been ～ 「～であったかもしれない」

○ 助動詞＋完了形（過去に関する推量）

◇ one equipped with ～ 「～の備わった家庭」

○ one は a home を指す。

○ equipped は one を修飾する過去分詞

cf. equip ～ with … 「～に…を備えつける」

②◇ go so far as to do 「…しさえする」

◇ prevent O from …ing 「Oが…するのを妨げる」

◇ it は satellite TV を指す。

◇ their people 「その国の国民」

◇ in an effort to do 「…しようとする努力において」

◇ preserve 「～を保存する」

③◇ With a larger number of programs reaching us from home and abroad 「国内から海外からますます多くの番組が我々に届くにつれ」

○ with O C 「Oが…した状態で〔…して〕」

○ 付帯状況を表す with

○ home → abroad と対になっていることから「国内」の意であることを読み取る。

◇ we will see a wider gap opening between our parents and ourselves 「我々の両親と自分たちとの間により深い溝が開くのを見るだろう。」

○ see ～ …ing 「～が…しているのが見える」

(2)

- ア It は形式主語で、to do が真主語。  
イ responsible for …ing 「…のことで責任があつて」  
ウ a generation whose attitudes … 「その態度が…である世代」  
所有格の関係代名詞。  
エ be faced with ～ 「～に直面する」  
オ enable ～ to do 「～が…することを可能にする」  
カ in addition to ～ 「～に加えて」  
キ when it comes to …ing 「…ということになると」  
ク be capable of …ing 「…することができる」

(3)

第5段落参照。ℓ. 25～27で過去のテレビの見方が、ℓ.27 Nowadays 以降で現在のテレビの見方が記述してある。

**全訳**

選択の範囲が我々よりずっと限られていたため、我々の両親の世代にとって人生は多くの点ではるかに単純なものであった。①彼らが考える快適な家庭というのは、カラーテレビと洗濯機、それに冷蔵庫が備わった家庭であったかもしれない。我々のうちの多くの者にとって、それら3つの基本的な必需品、とりわけテレビなしで暮らすのは難しいことであろう。

日本において都会の人間と田舎に住んでいる人間の差の多くが消えたのはテレビのせいであると言う解説者もある。すべての国においてマスメディアは人々の考え方に大きな影響を与えてきたが、日本では、違うチャンネルで放送されていてもテレビ番組が明らかに似通っているため、驚くほど考え方の似ている世代が生まれてきた。

しかしながら、両親が見てきた通常のチャンネルに加え、科学技術の進歩のおかげで衛星放送やケーブルテレビを見ることが可能になったので、我々の世代は非常に多様な番組に直面している。衛星放送が文化を侵略するのではないかという疑いを抱くようになった国もあり、②自国の宗教的、文化的価値観を守るために、国民に衛星放送が届かないようにしようとさせるほどの国もある。

日本では衛星放送とケーブルテレビは定着しているようである。従って、我々の世代は番組を見る時には賢明に選択できるようにならなければならないだろう。ビデオの成功によって、我々は1日中映画を見て過ごすことができるということがわかった。従って、例えば、熱狂的なスポーツファンの人は朝から晩までスポーツチャンネルばかり見ていることもできるであろう。チャンネルの数が増加すれば番組の質が落ちるだろうし、その結果、見る番組を賢明に選択する必要も増してくるだろう。

日本に初めてテレビが導入された頃は、家族や時には近所の人々もより集まって日曜の晩の人気番組を見た。その頃は、テレビは映画館と似たような役割を果たすかもしれないと考えられていた。テレビを見ることは、家族全員が楽しむ一種の共同活動であった。現在では、どの家庭にも複数のテレビがあることが多く、異なる世代が別々の部屋で別々の番組を見ている。③国内や海外からますます多数の番組が私たちに届くにつれ、おそらく我々は両親と自分たち自身の間により深い溝が生じるのを見ることになるだろう。衛星放送やケーブルテレビの影響

により，結果的に，異なる考え方を持つ人々がより簡単に見い出せるような国が生まれるかもしれない。

**注**

- ℓ. 1 ◇ in many ways 「多くの点で」
- ℓ. 4 ◇ those three basic necessities は a color television, a washing machine and a refrigerator のこと。
  - necessity 「必需品」 < necessary *adj.*
- ℓ. 6 ◇ erase *vt.* 「～を消す」
- ℓ. 7 ◇ those (who are) living in the country 「田舎に住んでいる人々」
- ℓ. 8 ◇ the way people think 「人々の考え方」 [= how people think ]
  - ◇ and here the similarities evident in TV programs, (…), have
    - here = in Japan
    - similarity *n.* 「類似性」 < similar *adj.*
    - evident in TV programs は similarities を修飾する形容詞句
- ℓ. 9 ◇ although broadcast on different channels 「違うチャンネルで放映されているけれども」
  - = although *they* (= TV programs) *are* broadcast …
  - broadcast は過去形・過去分詞形ともに原形と同形
- ℓ. 11 ◇ thanks to ～ 「～のおかげで」
- ℓ. 14 ◇ question *vt.* 「～に異議を唱える；～を疑う」
  - ◇ the cultural invasion of satellite TV
    - satellite TV invades the culture の名詞化表現／主格関係を表す of
- ℓ. 17 ◇ it would appear that …
  - would は仮定法／婉曲表現
    - = Satellite and cable TV would appear to be here to stay.
  - 非人称の it
  - be here to stay 「(流行，慣習) などが定着している」
  - ◇ our generation is going to have to learn to choose wisely
    - be going to *do* + have to *do* + learn to *do*
- ℓ. 18 ◇ The success of video has shown us that …
  - that … は show の直接目的語になる名詞節
  - show A B 「AにBを示す [見せる]」
- ℓ. 19 ◇ spend O (in) …ing 「Oを…することに費やす」
- ℓ. 20 ◇ it would appear possible for enthusiastic sports fans …
  - it は to 以下を受ける形式主語
  - would は 仮定法／婉曲表現
  - enthusiastic *adj.* 「熱狂的な」 < enthusiasm *n.*
- ℓ. 21 ◇ tune into ～ 「～にチャンネルを合わせる；～に波長を合わせる」
  - ◇ With the increase in ～ 「～の増加とともに」

◇ the number of ~ 「～の数」(→単数動詞で受ける)

cf. a number of ~は複数動詞で受ける

ℓ. 22 ◇ may well … 「①…するのをもっともだ ②…かもしれない」

◇ selective *adj.* 「選択する力のある；入念に選択する」

ℓ. 25 ◇ *It seemed* at that time *that* it might play a similar role to that of the movie theater

○ it seems that … 「…のように思われる」

○ it might … の it は TV を指す。

○ play a ~ role 「～な役割を果たす」

○ that は the role を指す。語句の繰り返しを避ける用法。

ℓ. 26 ◇ communal *adj.* 「共同の；共同社会の」

ℓ. 27 ◇ the family as a whole 「家族全体で」

○ as a whole 「全体として；概して」

cf. on the whole 「概して」

ℓ. 31 ◇ result in ~ 「～に帰着する；結果として～を生じる」

## 【6】

### 解答

A. (1) Had (2) were ; to (3) should (4) But ; for

B. (1) would (2) as ; if [though] (3) Come (4) Be

### 解説

A.

(1)

「医者がもう少し早く来ていたら、病人は助かっただろうに。」の意。主部の the invalid would have been saved から、仮定法過去完了の文であることがわかる。If the doctor had come a little earlier の if を省略し、その代わりに had を主語の前に置いて、Had the doctor come a little earlier とする。ただし、If the doctor had come … の had は [həd] と弱形で発音されるのに対して、Had the doctor come … の had は [hæd] と強形で発音されることに注意。

(2)

「もし(仮に)我々が月に住むとしたら、地球の眺めを楽しめるだろう。」の意。if ~ were to … は、元来 be to *do* の形で仮定法過去に属し、未来の仮定を表す。帰結節の動詞の形は仮定法過去である。

*Ex.* What would happen if we were to lose the secret of making fire?

(もし人間が火をおこす秘訣を忘れたらどうなるだろうか。)

(3)

「万が一私の留守中に彼が来たら、来週の今日もう一度来てくれるように言って下さい。」の意。仮定の条件を表す if ~ were to … に対して、if ~ should … はあくまでも単なる条件という枠の中で「もし万が一…」という条件を表す。帰結節の動詞の形は直説法、仮



定法, 命令法がくるが, ここでは命令文がきている。

Ex. If I should fail, I will [would] try again. (万が一失敗しても, またやるつもりだ。)

(4)

「言葉がなければ, 思考は存在しない。」の意。but for ~ で「～がなければ (= without ~ = if it were not for ~ [were it not for ~])」の意。

B.

(1)

It *will not* stop raining. 「雨は当分やみそうにない。」という文が潜在していると考え, I wish it *would* stop raining. とする。I wish it stopped raining. とすると, It does not stop raining. 「(これまで一度も) 雨がやんだことがない。」という文が潜在していることになり, 変である。

(2)

'as if [though] + 仮定法' で「まるで…かのように」の意。

(3)

Come what may [will] で「たとえどんなことがあろうとも (= Whatever may come; Whatever happens)」の意。文頭の come は古い英語で命令に用いられた仮定法現在のなごり。

(4)

B. (3) と同様, 古い英語で命令に用いられた仮定法現在のなごりと考えてよい。ever so = very。homely は「質素な; 素朴な; 平凡な」の意の形容詞。

## 【7】

### 解答・解説

(1) will call

条件節の動詞が find と現在時制であることから, 本文は仮定法ではなく直説法の条件文であることに注意する。なお if 節は条件を表す副詞節なので, 意味上は未来のことだが現在時制で表されている。

(2) would come [仮定法過去, 帰結節]

(3) had known [仮定法過去完了, 条件節]

(4) knew, could read [仮定法過去, 条件節及び帰結節]

(5) had been, wouldn't have sunk

仮定法過去完了, 条件節及び帰結節。沈没する: sink (-sank-sunk)

**【8】**

**解答・解説**

- (1) I'll go to the movies with you tonight unless my boss asks me to work overtime.  
○ unless S V 「SがVでない限り」
- (2) I would never have written my blog about the accident if I had known the real story behind it.  
○全体として仮定法過去完了となる。
- (3) Had I known she was not feeling well, I would never have asked her to come.  
= If I had known she was not feeling well, ~ .
- (4) If I were given the opportunity to live my youth over again, I would do it more successfully and differently.  
○現在の反実仮想は仮定法過去で表す。
- (5) Japanese people would have seen other cultures as alien a hundred years ago.  
**別解** Japanese people a hundred years ago would have seen other cultures as alien.  
○ a hundred years ago に条件がある。
- (6) The following day, he went to school as though nothing had been the matter with him.  
○ as though S V = as if S V 「まるでS Vのように」
- (7) His father proposed that he work as a volunteer at the camp.  
○ propose は提案・要求の動詞であり that 節には仮定法現在が用いられる。

## 3章

### 問題

#### 【1】

#### 解答・解説

(1) He cannot be laughed at (by us).

○ 助動詞がある場合には be 動詞に助動詞を付ける。また laugh at のような群動詞の場合には前置詞等を忘れないようにする。by us のような一般人主語は省略しても良い。

(2) The child was not taken good care of (by anybody).

○ take good care of という群動詞を一つのまとまりと見る。「否定は前」という原則により、by nobody とは出来ない。nobody = not + anybody と分解して考える。

(3) It was decided (by them) to send used clothes to children in poor countries.

○ to 不定詞を主語にする場合、通常は仮主語 it を置いて後置させる。

(4) It is thought that he is great.

○ that 節を主語にする場合も通常は仮主語 it を置く。by people も通常は省略する。なお、He is thought to be great. と書いても良い。(10) 参照。

(5) A new novel was being written by her then.

○ 進行形の受動態は be + being + done の形になる。

(6) The window was left open by the child.

○ SVOC の受動態は目的語を主語にする。

(7) I was made to wait outside for a while by her.

○ 使役動詞や知覚動詞を受動態にする時には原形不定詞は to 不定詞になる。

(8) Let it be done at once.

○ 命令文を受動態にするには Let O be done. の形にする。

(9) By whom was America discovered? / Who was America discovered by?

○ 疑問詞は文頭に置かれるため、By whom …? / Who … by? という形になる。

(10) It is said that he died in America. / He is said to have died in America.

○ They say that …. を受動態にすると It is said that …. となる。また S is said to do. という形でも書ける。詳しくは準動詞（不定詞）で扱う。

(11) We were much surprised at the news.

○ by + 動作主にならないもの。ある程度は覚えていく必要がある。【2】を参照のこと。また程度等の副詞は be + done の間に入れることが多い。日本の問題集では The news surprised us much. という英文を受動態にさせる設問が多く見られるが、much を肯定で単独で用いることはほとんどなく、この設問のように a lot 等を使う。しかしながら受動態で過去分詞を修飾する場合は We were a lot surprised at the news. とは言わず、We were much surprised at the news. となるのが普通である。

(12) The top of the mountain was covered with snow.

- be covered with ~ 「～で覆われている」

## 【2】

### 解答・解説

(1) d

「スペイン語は多くの国で話されている。」

- スペイン語を speak するのは国ではなく人々であるため by は使われない。

(2) d

「今日のディナーは会社が払ってくれます。」

- pay の目的語は money。例えば pay (the bill) for the dinner 等をイメージする。

(3) b

「山崩れで4人以上が死亡した。」

- 「山崩れという事象の中で」と考える。

cf. Three people were killed in the car accident.

(4) d

「その泥棒は人ごみの中で姿をくらました。」

- lose sight of という群動詞の受動態。

(5) d

「彼は見知らぬ人に話しかけられた。」

- speak to him の受動態。

cf. He talked me into doing it. (彼は私を説得してそれをやらせた。)

(6) b

「彼の眼は涙であふれていた。」

- be filled with ~ = be full of ~ 「～でいっぱい」

(7) d

「私たちはにわか雨に遭い、ずぶぬれになった。」

- be caught in a shower 「にわか雨に遭う」, be drenched [soaked] to the skin 「ずぶぬれになる」

(8) a

「人はその友人を見れば分かる。《ことわざ》」

- be known by ~ (判断基準)

(9) c

「関西人は活発で、情熱的で、儉約として知られている。」

- be known for ~ (特徴)

(10) b

「テレビにも頻繁に出演するので、彼女は人々に広く知られるようになった。」

- be known to ~ (人々)

(11) c

「彼はその結果にひどく落胆していた。」

○ be disappointed with [at ; in] ~ 「～に落胆する」

(12) a

「彼は私にいらついていた。」

○ be annoyed with ~ 「～に困る；いらいらする」

(13) d

「返却のためにこのレシートを保存してください。返却は全て 60 日以内にレシートと共に  
行わなければなりません。」

○ S accompanies O. = O is accompanied by S. 「S は O に付随する」主たる事象が O で、  
S が付随事象となる。

### 【3】

#### 解答・解説

(1) to

「ドアが開いていたので、彼らが私の父について話しているのが聞こえた。」

○ 能動態にして考えると、As they left the door open, I heard them talking about my  
father. となる。

(2) herself

「彼の妻は、出産後面倒を見てもらえるように、両親の実家へと行った。」

○ so that S may [can/will] … 「S が～するために」

(3) people

「このメッセージを聞かせよう。そして世界中の戦争を終わらせよう。」

○ Hear this message and put an end to all the wars in the world. の受動態。put an end  
to A 「A を終わらせる」

(4) been

「特許期間が切れた医薬品は、ほかのどんな製薬会社でも自由に製造することができる。」

○ expire は自動詞で「期限が切れる」という意味である。

(5) was

「仏教は紀元前 5 世紀にインドで生まれ、1 世紀に中国に伝わった。」

○ originate も自動詞で「発生する」という意味であるため受動態にはしない。

### 【4】

A.

#### 全訳

朝、家を出て職場に向かう時、新聞代や昼食代、電車賃がいくらかかるかある程度正確に知っている必要がある。家のようなより大きなものを購入する際には、月々の支払いがいかにか簡単であるか、あるいはいかに困難であるか、ある程度知っている必要がある。つまり、これから先の人生を難なく過ごすには経済的秩序が必要なのである。経済的混乱がいかにか悲惨なものと

なりうるかと、経済的混乱がもたらしうる社会的問題（＝経済的混乱がどんな社会的問題をもたらしうるか）を理解するために、極端な場合を考えてみる。つまり、第1次世界大戦直後のドイツである。

B.

**全訳**

現代科学のおかげで、私たちは、かつては早死の原因であった多くの社会的、医学的問題を除去しつつある。この一節を読んでいる皆さんのほとんど全員が、今から70年後にまだ生きているということもあり得ないことではない。

C.

**全訳**

特に日本に比べて、英国の生産性は低く、経済力はますます悪くなっており、かなりひどい状態である。なぜこのようなことが起こっているのかを日本人が理解するには、仕事に対する英国人の態度と日本人の態度との間には大きな差異があるということを知る必要がある。

D.

**全訳**

もちろん、私は法の至上性という概念は純粋にイギリス的な概念であると言っているのではないし、またそれが他の国で認められていないと言っているのでもない。しかし私はその概念がそんなにも完全に受け入れられてきた国が他にあるかどうか疑わしいと考えるのである。

## 【5】

**解答**

- (1) 約6年
- (2) ニューヨークに連れて行った。
- (3) 「全訳」の下線部①参照。
- (4) 出る杭は打たれる
- (5) 「全訳」の下線部③参照。

**解説**

- (1) 1981年に左胸を取る手術をした後、1987年に死去した。

※手術をした年

ℓ. 1 It was 1983, and the cancer that had taken her left breast two years earlier <挿入> had settled in a lymph node at the base of her neck 「それは1983年のことだった。そしてその2年前に彼女の左乳房を奪った癌は首の付け根のリンパ腺に転移していた」参照。左乳房を失ったのは手術によってである。

※死去した年

ℓ. 15 … 1987, when she died at the age of forty-six 「彼女が46歳で死んだ1987年」参照。

- (2) 下記参照。猫に関する記述はこの部分にしかない。

ℓ. 10～13 So Chiba sold her furniture, donated her books to a library, packed up a favorite silk dress from childhood and the only being she was dependent upon

—— a cat named “Be-be” —— and headed for a new life in New York City. 「だから千葉は家具を売り、書物を図書館に寄贈し、子供の頃からのお気に入りのシルクのドレスと彼女が頼りにしていた唯一の生きものである『べべ』という名の猫を荷物に詰め、ニューヨーク市での新生活へ向けて旅立った」参照。the only being she was dependent upon と a cat named “Be-be” が同格であることと、「荷作りした」という比喩的な表現を意識することがポイントとなる。

- (3) ◇ A is no more … than B 「AはBと同様…でない」
  - but dying of cancer is (shameful) と省略部分を補って考える。
- (4) ◇ nail 「釘」
  - ◇ stick out 「目立つ (= stand out) ; 突き出す ; しつこく反対を示す」
  - ◇ hammer down 「～を打ち込む ; ～を打ちつける」
- (5) ◇ In a society where individuality <挿入> is discouraged early on 「早期に個性が妨げられる社会においては」
  - S V の間に挿入があるので文の構造を見失わないよう注意する。
  - discourage 「～を落胆させる [妨げる]」 ⇔ encourage
  - early on 「初期に ; 早期に」

**全訳** .....

千葉敦子は死をむかえるためにニューヨークへやって来た。それは1983年のことだったが、その2年前彼女は左乳房を癌で失い、また癌について正直にそして自由に書いた最初の日本人ジャーナリストとして彼女は有名になった。しかしその癌は首の付け根のリンパ腺に転移していた。1968年にニーマン奨学金給費研究員としてハーバード大学に学んで以来、千葉はフリーランサーとしての腕を試すためにアメリカにもう一度戻ることを夢見てきた。しかしもっと要を得ているのは、次のようなことだった。彼女は友人たちにこう言った。「どんなことがあっても、私は日本では死にたくない。」と。

①日本でも死ぬのは他の国々と同様に恥ずべきことではないが、癌で死ぬのは別である。癌は(当時)日本では長い間議論されてこなかった問題であった。患者が治療について詳しく説明を受けることは稀であるし、医者はしばしば回復の見込みのない病人を敬遠する。だから千葉は家具を売り、書物を図書館に寄贈し、子供の頃からのお気に入りのシルクのドレスを荷物に詰め、彼女が頼りにしていた唯一の生きものである「べべ」という名の猫を連れて、ニューヨーク市での新生活へ向けて旅立った。

彼女の乗った飛行機がニューヨークのジョン・F・ケネディ空港へ着陸した瞬間から46歳で死ぬ1987年7月まで、千葉は自分の祖国に変化を促すことに身を捧げた。週2本のコラム、「死に備えて」と「癌とともに生きる」で、そして3年間にわたって書かれた13冊の本で、彼女は日米の医療施設について時事論評を著した。彼女は3週毎に化学療法を受けねばならないほどに衰弱しても、毎日書き続けた。紙袋に嘔吐しながら書いた日もあった。ニューヨークでの生活、演劇、政治、そして夜のパーティーのことなどについて書いた。大概は自分のことを書いた。「自分の病気のことで涙を流したことなど一度もない。私には悲しんでいる暇などない。残された時間をいかに有意義に過ごすかを考えているだけだ。私は癌になったことを特別悲劇的な出来事とは思っていない。今日までの私の人生は、辛いときもあったが、すばらしい思い

出に満ちている。」

日本には「出る杭は打たれる」という諺がある。千葉敦子は突き出していた。彼女はうんと突き出して、大きく腕を振っていた。③早期に個性、とりわけ女性の個性の伸長が反発を受ける社会で、千葉は自分の知性と肉体と精神を誇示したのである。彼女は女性ジャーナリストが新聞の社交欄のみに配属されることに対して異議を唱え、日本の大手新聞の最初の女性経済記者になった。その勝利を彼女は優雅に、そして皮肉に勝ち取った。当然のことながら、彼女は他の記者と同じくらい立派に株式市場を取材したが、彼女はそれを丈の短い体にぴったりとしたドレスでやったものだった。

**注** .....

- ℓ. 1 ◇ to die 「死をむかえるために」
  - 目的を表す副詞用法の不定詞
  - ◇ the cancer that had taken her left breast two years earlier 「その2年前彼女の左乳房を奪った癌」《直訳》
  - 続く the cancer that had made her ~ でさらに言い換えられている。このあたりは全訳でかなり意識してあるので注意。
- ℓ. 2 ◇ the cancer that had made her famous as the first Japanese journalist to write honestly and freely about the disease 「日本で初めて癌について正直に自由に書いたジャーナリストとして彼女を有名にした癌」《直訳》
  - make O C 「OをCにする」
  - as 「～として」
  - the first Japanese journalist to write … = the first Japanese journalist who wrote …
  - to write は journalist を修飾する形容詞用法の不定詞
  - the disease は the cancer を指す。
- ℓ. 3 ◇ settle in … 本文では「病気などが身体の一部にとどまる」の意味
- ℓ. 4 ◇ ever since ～ 「～以来ずっと」
- ℓ. 5 ◇ to try 「～を試すために」《目的を表す副詞用法の不定詞》
- ℓ. 6 ◇ no matter what happens 「何が起ころうと」《譲歩表現》
  - = whatever happens
- ℓ. 9 ◇ a topic not discussed in Japan 「日本で話し合えない話題」
  - (not) discussed は a topic を修飾する過去分詞
  - = a topic which is not discussed in Japan
  - ◇ rarely 「滅多に～ない」
  - ◇ detail 「詳細」
- ℓ. 10 ◇ treatment 「治療；扱い」 < treat v.
  - ◇ the sick 「病人」 = sick people
  - 'the + 形容詞' で複数普通名詞「～な人々」を表す用法
- ℓ. 11 ◇ furniture 「家具」
  - 不可算名詞なので複数形にならないことに注意



- ◇ donate 「～を寄贈する」 > donation *n.* 「寄付」
- ◇ pack up ～ 「～を荷作りする」
- ℓ. 12 ◇ the only being (that) she was dependent upon と関係詞を補って考える。
  - be dependent upon ～ 「～を頼る」
  - 後の a cat named “Be-be” と同格
- ℓ. 13 ◇ head for ～ 「～に向かって進む」
- ℓ. 15 ◇ at the age of ～ 「～歳の時に」
  - ◇ devote *oneself* to ～ 「(仕事など) に一身を捧げる [専念する]」
  - ◇ encourage 「～を奨励する；促進する」
- ℓ. 17 ◇ written は thirteen books を修飾する過去分詞。
  - = thirteen books which were written ～
  - ◇ the course of ～ 「～の経過；～の成り行き」
- ℓ. 19 ◇ reduce ～ to … 「～を…まで減らす」
- ℓ. 21 ◇ mostly 「たいてい」
  - ◇ Not once have I shed tears …
  - not once が文頭に出たため、主語と動詞が倒置された形
  - shed 「(血；涙など) を流す」
  - in connection with ～ 「～に関連して；～に連絡して；～と共同で」
- ℓ. 23 ◇ how to *do* 「…のしかた；いかに…するか」
  - ◇ the time left 「残された時間」
  - left は the time を修飾する過去分詞
  - ◇ see ～ as … 「～を…と見なす」 = regard
  - ◇ tragic 「悲劇的な」
- ℓ. 24 ◇ up to ～ 「～に至るまで」
  - ◇ tough [tʌf] 「堅い；丈夫な；骨の折れる；辛い」
  - ◇ be filled with ～ 「～で満たされている」
- ℓ. 26 ◇ saying 「諺；言い習わし」
- ℓ. 27 ◇ way 《副詞・前置詞を強めて》「ずっと；はるかに；うんと」
- ℓ. 29 ◇ challenge 「①～に挑戦する ②～に異議を唱える」
  - ◇ assignment 「割り当て；任命」
- ℓ. 30 ◇ major 「大きい方の；過半数の；主要な」
- ℓ. 31 ◇ would 《過去の習慣》「…したものだった」
  - ◇ A as well as B 「B同様にA」

**[6]**

**解答** .....

- (1) (b) By ; whom ; was
- (2) (b) is ; taken ; for
- (3) (b) They ; sell (c) That ; store

(4) (b) be ; kept ; clean

(5) (b) had

**解説**

今回は「受動態」およびそれに関する問題である。受動態の構造は次のように理解する。

<b>the girl</b>	<u>liked by everybody</u>	「誰からも好かれている少女」
↑	└──┬──┘	(liked by everybody は形容詞の働きをする)
The girl is		「その少女がいる」
The girl is <u>liked by everybody</u> .		「その少女は誰からも好かれている状態である」
		→ 「その少女は誰からも好かれている」

日本語の「好かれて」は liked, 「いる」は is に対応していると考えるとよい。

(1) 「電話は誰によって発明されましたか。」

○ The telephone was invented by ~. の「~」の部分を探る疑問文にする。前置詞 + whom を文頭に置くのは文語調。

(2) 「交通規則は皆が知っているものとされている。」

○ We assume that ... を受動態にしたのが、It is assumed that ... であるから、We take it for granted that ... を受動態にした It is taken for granted that ... とすればよい。take ~ for granted で「~ (物事など) を当然のことと考える」の意。

(3) 「あの店では塩を売っている。」

○ (a) の文を「店の人たち」を主語にした能動態の文が They sell salt at that store. で、「あの店」を主語にした能動態の文が That store sells salt. である。

(4) 「手を清潔にしておかなければならない。」

○ ‘法助動詞 + 他動詞’の受動態の形は‘法助動詞 + be + 過去分詞’である。

(5) 「混んでいる電車の中で私の財布が盗まれた。」

○ ‘have ~ done’で「~を…される」という受動態に相当する意味を表す。

**【7】**

**解答・解説**

(1) He insists that whoever commits a crime be severely punished.

○ 前述が普通だが、He insists that whoever commits a crime be punished severely. でもよい。insist は提案・要求の動詞であるため that 節は仮定法現在になっている。

(2) He had his pocket picked in the packed train this morning.

○ 時制を考えても意味を考えても、‘had picked his pocket’ではおかしい。

(3) In the near future, a computer will be developed which will be functionally equivalent to our brain.

○ which の先行詞は a computer である。関係節が後置されている。

(4) The dirty road was gradually being washed clean by the rain.

○ 能動態にすると、The rain was gradually washing the dirty road clean. となる。

(5) An accident is often brought about by a little carelessness.

- bring about A = cause A 「引き起こす」

## 【8】

### 解答・解説

(1) to cheat → cheating

「彼女は数学の試験でカンニングがバレてその報いを受けなければならなかった。」

- face the music 「自己の言動の報いを受ける」
- catch A …ing 「Aが…しているところを目撃する」

(2) was → were

「その店のドアには『なんでも修理します』という看板があったが、その下には『ノックしてください。呼び鈴が壊れています。』と書かれていた。」

- written below が倒置されて前に出た形。

(3) well done → well

「このシャツは毎日洗濯しても長持ちしますと言われた。」

- wear well で「長持ちする」という意味。この wear は「着る」というより「着られる」という意味になるので能動受動態とも呼ばれる。

(4) convinced → convinced of

「端末使用者は、教育を受けて電子メールを送受信する安全な方法について納得しなければなりません。」

- convince A of B 「AにBを確信（納得）させる」

(5) done away → done away with

「男性が払って当たり前という日本の習慣はできる限り早く廃止しなければならない。」

- do away with ~ = abolish 「~を廃止する」

## 4章

### 問題

#### 【1】

##### 解答・解説

いずれも入試では頻出される表現であるためできる限り早期にマスターしてしまうこと。

- (1) On [Upon] / Directly [Immediately ; Instantly] / The minute [The second ; The moment] / had I / when [before] / sooner had I / than  
「オフィスを出るやいなや、傘を置き忘れたことに気がついた。」
- (2) a famous / famous a / famous is he / fame / such / is his fame  
「彼は大変著名なのでみんな彼の名前を知っている。」
- (3) not until [only when ; only after] / that / until we lose / do  
「健康は失って初めてその大切さに気づく。」
- (4) Strange / it may seem  
「奇妙に聞こえるかもしれませんが、その海外からの旅行者たちは歌舞伎を楽しんだ。」

#### 【2】

##### 解答・解説

- (1) which  
「彼女はこれらの物語を本当だと思い、その地の女王になろうと決心した。」  
○ which が関係節を作ってしまうと文にならないため不要と考えれば良い。すると OSVC の形になる。
- (2) bad  
「彼はその知らせに驚いたけれども、それを誰にも話さなかった。」  
○ Although he was surprised at the news, …
- (3) they  
「彼はその間違いを再びしないだろうし、私たちもそれを真剣には考えないだろう。」  
○ nor V S で「S もまた V ではない」の意味にする。
- (4) when  
「昨日になって初めて彼は腕時計をなくしていたことに気がついた。」  
○ when は接続詞のため S V が必要。なお、until には前置詞用法もあるため、It was not until yesterday that he realized that he had lost his watch. は可能。
- (5) had  
「目を覚まして初めて、全く見慣れない場所にいることに気がついた。」  
○ Not until S V が否定の副詞節になっていることに注意。until 節内は倒置形にする必要がない。

(6) great

「彼女の怒りは大変なものだったので、彼女は自制心を失った。」

- Such = So great である。つまり So great was her anger that she lost control of herself. なら良い。

(7) rather

「列車が動き始めるとすぐに彼女は居眠りを始めた。」

- no sooner ... than の形式。

### 【3】

#### 解答・解説

(1) as

- regard A as B の A の部分が後置された形。

(2) was

- as her mother was の S V が倒置されている。

(3) That

- I wouldn't say that S V の that 節 (say の目的語) が倒置されている。

(4) Such / beauty that

= She was so beautiful that she was hailed as "the Goddess of the Silver Screen".

(5) nor did she admit / blame

- nor V S の形にする。be to blame は「責められるべき」という意の表現。

(6) sooner had he / than / crying

- No sooner ... than S V . 「～するや否や S V 」
- burst out crying = burst into tears 「突然泣き出す」

### 【4】

A.

#### 全訳

幼い子供は、ひ弱で無防備なので、自分を愛し、支え、導いてくれる大人が誰もいないと思うことに耐えられない。もしそのような大人がいない場合、子供はそのような人を想像して創りあげる。

B.

#### 全訳

仕事が増えるにつれて知的職業化し、専門化している現代社会では、核家族化傾向は避けられない自然の現象だと言わねばならないと思う。昔のような拡大した家族組織、つまり子供・両親・祖父母がみんな一緒に同じ家に住む姿に戻る方がいいと私が言っても、実際これはたいへん困難なことだろう。核家族化は現代の1つの要求であると思はれる。

C.

#### 全訳

真の科学的探究心を持って、あなた方は実際に天体の運行を観察することがあるだろう。



◇ gap 「溝」

◇ between people coming into fresh contact 「新たに接触するようになった人々の間に」

○ coming は people を修飾する現在分詞。

○ come into ～ 「～（事・状態・事態）になる」

○ fresh contact 「新たな接触」

④◇ A shaping of one's own manners to ～ 「自分自身の（社会の）マナーを～に合わせる  
こと」

○ shape one's own manners to ～ の名詞表現。目的格関係を表す of。

○ shape A to B 「AをBに合わせる」

◇ those = manners 語の繰り返しを避ける用法。

◇ sacrifice 「犠牲」

◇ to make は sacrifices を修飾する形容詞用法の不定詞。

(2)

◇ none the less 「それでもやはり；にもかかわらず」

○ the less 「それだけより少ない」を否定して「それだけより少ないということはない」  
→ 「にもかかわらず～だ、それでもやはり～だ」という意味を表す表現（the は比較級  
の前で用いられる副詞で「それだけ、ますます」の意を表す）

Ex. I like him *none the less* for his faults.

（彼には欠点があるが、それでも彼の事が好きだ。）

cf. 'all the 比較級 for [because] ～' 「～だからより一層…」

Ex. I like her *all the better* because she is clever.

（頭が良いのでより一層彼女の事が好きだ。）

◇ it = the greeting

(3)

the ( ⑥ ) words such as "I am going for a stroll." 「『散歩に行きます』という ( ⑥ ) 言葉」とあるので、**b vague** 「漠然とした」が相応しい。

(4)

前の which 以下の節、つまり「今では人の健康状態を本当に尋ねるつもりではない」ということから判断して、本当に健康状態を尋ねられたと勘違いした答えを想定すればよい。よって、解答例以外にも健康状態を答える返事ならば正解となる。

○ term 「①期間 ②条件（複数形で）③専門用語；言葉（しばしば複数形で）」

#### 全訳

①未開の民族には上品な交際の作法など全然ないという通念は、全くの見当はずれである。作法のきまりは、あらゆる社会に存在しているようであり、半裸の未開人もヨーロッパの文明人と全く同様に礼儀正しいだろう。例えば、あるポリネシア人が、ある暑い日に緑のやしの実の贈り物を持って来てくれたことがあった。私が飲んで、彼にも飲むようにしきりに勧めたとき、彼は喉が乾いていることは認めたものの断った。彼は礼儀正しく説明した。②「この土地では、『自分の贈り物を食べる人』と人に言われぬように、自分が持ってきた贈り物を一緒に食べることはしないのです。」と。ならばここには、少なくとも我々自身の場合

と同じように洗練された細かい心遣いの態度があることになる。

時にはその土地の礼儀作法が、度が過ぎてるとさえ思われることがある。昔のバガンダ族には、道端で合う人達にまでなされる、度の過ぎた挨拶や感謝を含めた礼儀作法の慣習があったということを、ロスコウは述べている。ヨーロッパ人が見かけられると、身なりが立派だといったのは丁寧に感謝されたし、あるいは2人が歩調を合わせて歩いてくれたといったは感謝されたかもしれない！

その土地の挨拶が我々の慣例と一致しないような場所においてさえも、それでもやはりその挨拶は礼儀の規則に従っているのだ。マレーの農夫は道で人に会うと、“How are you?”とは言わず、「どちらへお出かけですか」と尋ねる。これは詮索好きでも無礼なわけでもなく、慣習なのである。それに対しては、事実を答えることもあるかもしれないし、「ちょっと散歩に」といったような漠然とした言葉で答える場合もあるかもしれない。どちらかと言えば、その言葉は今日では人の健康状態を本当に尋ねるための言葉ではなくなっている英語の“*How are you?*”と同様意味のない言葉なのである。もっとも、時にはよく分かっていない外国人がそうした言葉で答えることがあるかもしれないが、③こうした挨拶の様式で大切なことは、言葉の明白な意味ではなく、言葉が発せられること、つまり、何らかの言葉の橋が、新しく接するようになった人達の間の社会的な溝を越えてかけられるという事実である。

現地の人々の社会に入っていきヨーロッパ人にとって、その土地の人の作法に合わせるということは、協力を始める最もよいやり方の1つである。現地の人々は、ヨーロッパ人は順応しようと努めないのので不作法だと考えることがよくある。④自分自身の作法を相手の社会の作法に合わせることは、最も容易にできる犠牲的行為の1つなのである。それは、道徳律や宗教的信念に含まれる、もっと根本的な価値を放棄するという意味はしない。

注

ℓ. 2 ◇ code 「①法典 ②(社会・階級・同業者などの)規則；習慣 ③(体系だった)符号」

ℓ. 3 ◇ savage [sæviðʒ] 「野蛮人；未開人」

◇ just as ~ as … 「…と全く同様に～」

◇ for instance 「例えば」

ℓ. 4 ◇ press O to do 「Oに…するようしきりに勧める」= urge

ℓ. 7 ◇ Here, then, is ~ 「ここにそれなら～があるではないか」

○ here is ~ 「ここに～がある」

○ then 「それなら；そうすると」

◇ a delicacy of attitude that is at least *as refined as our own* 「少なくとも我々自身の場合と同じくらい洗練された細かい心遣いの態度」

○ delicacy 「細かい心遣い」

○ as ~ as … 「…と同じくらい～」

○ refined 「①精製された ②上品な；洗練された；優雅な」

○ our own (delicacy of attitude) と補って考える。

ℓ. 8 ◇ excessive 「度を越した」

◇ mentions that ~ 「～ということを述べている」

○ that ~ は mentions の目的になる名詞節



- ℓ. 9 ◇ fulsome 「鼻につく；度を越した (= too much)」  
 ◇ those met by the wayside 「道端で会う人々」  
 = those (who were) met (「会われた人々」が直訳)
- ℓ. 11 ◇ in step 「歩調を合わせて」
- ℓ. 12 ◇ conform to ～ 「～に従う；順応する」  
 ◇ practice：ここでは「慣習；慣行」の意。
- ℓ. 13 ◇ peasant [pézn̩t] 「農夫」  
 ◇ on …ing 「…するとすぐ；…と同時に；…すると」 cf. in …ing 「…する際に」
- ℓ. 14 ◇ inquisitive 「研究好きな；詮索好きな」 cf. inquiry *n.* 「質問；調査」
- ℓ. 15 ◇ convention 「①代表者会議 ②しきたり」  
 cf. conventional *adj.* 「①型にはまった；平凡な ②(行動などの点で) 因習的な；従来の」  
 ◇ either A or B 「AあるいはB」  
 ◇ factual 「事実の；事実に基づく」
- ℓ. 16 ◇ stroll 「散歩；ぶらぶら歩き」  
 ◇ if anything 「①どちらかといえば；むしろ ②もしあるとしても」  
 ◇ it is as meaningless as ～ 「それは～と同じくらい意味がない」  
 ○ it：マレー人の “Where are you going?” という言葉を指す
- ℓ. 17 ◇ which：the English “How are you?” を先行詞とする関係代名詞。  
 ◇ intend 「～を意図する；～のつもりで用いる」  
 ◇ the state of one’s health 「人の健康状態」
- ℓ. 22 ◇ entering：分詞の形容詞用法。European を修飾している。
- ℓ. 23 ◇ that ～ は think の目的語になる名詞節
- ℓ. 24 ◇ make no attempt to *do* 「…しようという努力をしない」  
 ◇ adapt 「～を合わせる；適合させる」
- ℓ. 26 ◇ involved：分詞の形容詞用法。values を修飾。

## 【6】

### 解答・解説

- (1) 「その机の上りんごがある。」  
 机の上の「りんご」という新情報を述べるために、いわゆる存在構文 (There is 構文) を用いたため、主語に相当する語句はその後に配置されるから。
- (2) 「クジラを見たことはありますか。」  
 疑問文を作る際に英語は倒置形にするから。
- (3) 「ちっともそれを知らなかった。」  
 否定の副詞を強調のため文頭に置くとその後は倒置形になるから。
- (4) 「あなたが長生きしますように。」  
 祈願文の固い表現では may を文頭に置くことがあるから。

- (5) 「このバラはなんと美しいでしょう！」  
感嘆文では強調される語句が文頭に来るから。
- (6) 「学生たちの喜びは大きなものだった。」  
補語を強調して文頭に置くとその後の語順は倒置されることが多いため。
- (7) 「もし私が王ならそんなことしないだろう。」  
仮定法の条件節で if を消去するとその後が倒置形になるため。
- (8) 「ほら先生が来たぞ。」  
場所や方向を表す副詞が文頭に出されるとその後が倒置されることが多いため。
- (9) 「彼は大変勤勉なため皆に信頼されている。」  
いわゆる so (such) … that 構文の場合、so (such) … が文頭に来るとその後の語順は倒置されることが多いため。
- (10) 「けれども私は猛勉強して、大学入試に合格した。」  
S V の V を強調して文頭に置くと、V S v (動詞 + 主語 + 助動詞) の語順となるため。

## 【7】

### 解答・解説

- (1) 出席者の中に、ジョージ・トンプソンという名の紳士がいた。  
= Among those who were present was a gentleman … と考える。
- (2) 過去に関するすべての散文が歴史というわけではないし、すべての文筆作品が文学というわけではない。  
○ nor V S C 「S もまた C ではない」
- (3) 学校で習う多くのことは、後の人生では忘れてしまうものだ。  
目的語が前置されている。

## 【8】

### 解答・解説

- (1) before in history have there been such  
「歴史の中で以前、これほどまでに公的債務が高水準になったことはなかった。」
- (2) no account will we disclose  
「私たちはあなたのプライバシーを尊重します。そして如何なる理由があってもあなたのメールアドレスを誰かに漏らすことはいたしません。」  
○ on no account 「如何なる理由があっても～しない」 (= never)
- (3) nor did they respect him  
「彼らはロイの優秀な能力に気付いていなかったし、最初は尊敬もしていなかった。」
- (4) There happened to be a lot of Americans on the train I took.  
**別解** On the train I took there happened to be a lot of Americans.
- (5) did they realize that this would be their last
- (6) fluently did he speak Japanese that nobody noticed that he was  
○いわゆる so ~ that … 構文の so ~ が文頭に出た形。

## 5章

### 問題

#### 【1】

##### 解答・解説

- (1) The movie, in spite of my fears, was the best I have seen this year.  
「私の不安にもかかわらず、その映画は今年見た中で最高だった。」
- (2) My father, a great skier, was born in Setagaya, Tokyo, on April 11, 1969.  
「私の父は、偉大なスキーヤーでしたが、1969年4月11日東京都世田谷区で生まれた。」
- (3) The man was, as you know, fired from his last four jobs.  
「ご存知のとおり、その男は最後の4つの仕事からも解雇された。」
- (4) I wonder if we will (.) at length, as we call ourselves reasonable creatures, have good sense and create a world without war.  
「結局私たちは、自分たちを理性的な動物と呼んでいるように、良識を持ち戦争のない世界を創ることになるのでしょうか。」
- (5) It will be better, don't you think, to invite his parents as well.  
「彼の両親もまた招待するほうが良いと思いませんか。」

#### 【2】

##### 解答・解説

- (1) o  
○ so to speak = as it were 「言わば」
- (2) q  
○ for one 「私としては」
- (3) m  
○ but instead 「そうではなくて」 *cf.* instead of A 「Aではなくて」
- (4) a  
○ if anything 「どちらかと言えば」
- (5) b  
○ if ever 「たとえあったとしても (たとえいつかあるとしても)」
- (6) f  
○ it must be confessed という節が挿入されている。
- (7) k  
○ as far as I know 「私の知る限り (= to the best of my knowledge)」
- (8) h  
○ as far as S is concerned 「Sに関する限り」
- (9) j

- as S go 「平均的な S からすれば」
- (10) **l**
  - but in vain 「しかし無駄だった」
  - Ex.* He tried in vain to do it. (彼はそれをしようとしたが無駄に終わった。)
- (11) **d**
  - incidentally 「ついでに言えば」
- (12) **n**
  - talking of A 「A について言えば」 《慣用的な独立分詞構文》
- (13) **i**
  - as a rule 「一般に；通例；概して」
- (14) **p**
  - after all 「(いろいろ言ってみたが) やはり；結局」
- (15) **g**
  - if abstract 「たとえ難解 (抽象的) であったとしても」
- (16) **r**
  - in the meantime 「そうこうしているうちに；さしあたり；他方では」

### 【3】

#### 解答・解説

- (1) worse
 

「私は終電に乗り遅れた。さらに悪いことにはタクシーに乗るお金も持っていなかった。」

  - what is worse 「さらに悪いことには」という修飾語句を作る。この文では was でも可。
- (2) called
 

「私たちはいわゆる情報社会に住んでいるのです。」

  - what is called A = what you call A = what we call A 「いわゆる A」
- (3) any
 

「彼女が回復する希望は、たとえあってもほとんどない。」

  - if any 「たとえあるとしても (もしあるなら)」
- (4) it
 

「彼の祖母はどうやら 90 を超えているらしい。」

  - It seems that his grandmother is over ninety. の It seems という主節が挿入された形。
- (5) as
 

「疲れてるように見えると彼女は言った。彼は疲れていたけれども、彼女のために最善を尽くした。」

  - ~ as SV = ~ though SV = ~ that SV = though SV ~ 接続詞 as を使用する場合には理由にもなりうる。
  - Ex.* Rich as he is, he can buy anything you want.
- (6) as
 

「実際、易しいフランス語で書かれているので、この本は学生には良い。」

○ Done (as it is) ～, と as it is を挿入的に考える。「実際（現に）～なので」《理由を表す分詞構文の強調》

(7) As

「猿と同様に、人間は哺乳類です。」

○ as with A 「Aに関してと同様に；Aのように」

(8) doubt

「確かにあなたはこの種のことを聞いたことがあるでしょうが、これが必ずしも真実と言うわけではないのです。」

○ no doubt ～ but … 「確かに～だが（しかし）…」

(9) unlike

「彼は『ひらがなは、有益な情報を持つ漢字と違って、音声の役割しかありません』と言った。」

○ unlike A 「Aとは異なり」

(10) let

「彼は自分の赤ん坊を抱いたことすらありませんし、ましてオムツを替えたことなんてありません。」

○ let alone A 「Aは言うまでもなく」

#### 【4】

A.

全訳

エドウィン・L・ドレイクは1859年、北西ペンシルバニアのタイタスビル付近で世界で初めての油井を掘り当てることに成功した。石油試掘者たちはそこへとんで行き、別のいくつかの井戸もすぐにうまく掘り当てられた。①石油を製油所に輸送するために鉄道の石油輸送車両やパイプラインが作られた。②ここで、どろっとした黒い液体が灯油に加工され、家庭の明かりに使われていた鯨油やろうそくの代わりとなった。また、その黒い液体はオイルやグリースに加工され、機械の潤滑油として動物の脂肪よりも品質がよいとわかった。

B.

全訳

一般に、言葉が話されている前後関係や、その言葉の話され方から、相手の言葉が意味しうる内容のうち、どれを相手が言おうとしているのかがわかる。ところが違う言葉を話す人々や、異なった文化を持つ人々の間では、重大な誤解が生ずることもありうる。

C.

全訳

①英国を訪れていたあるアメリカ人の女性は、自分を無視すべきでないと思ふ時にイギリスの人々に無視され、何度も腹を立てた。例えば、彼女は駅のカフェテリアのボックス席に座っていた。1組の男女が同じボックス席の反対側の席に腰を下ろし始めた。彼らは自分たちのコートを席に置き、②男性は女性に何が食べたいかを聞いて、それを買いに行き、この女性はアメリカ人と向き合って座っていた。この間ずっと③彼らはそのボックス席にす

でに誰かが座っているということに気がついた様子はまったく見せなかったのだ。

**【5】**

**解答**

- (1) c  
(2) ② c      ③ b  
(3) ① d      ④ a      ⑤ a  
(4) 「全訳」の下線部④～⑤参照。

**解説**

- (1)  
a テレビ局は子供たちが自分で番組を選ぶ余地を残していない。  
b 子供たちがテレビから限られた世界観を得ることを教師たちは気にしない。  
c テレビを見るのが原因で引き起こされる害の性質に関しては様々な見方がある。  
d 暴力がテレビではびこっていても、その番組に関してより厳しい規制を求める人は誰もいない。  
e 何時間もテレビを見ることによって子供たちは一層すすんで自分で考えようとするようになる。  
f 子供たちがテレビにおける暴力の例に従うという証拠はあまりに多い。
- (2)  
②  
a 我々の周りの暴力的な犯罪に関してテレビがより明確な考えを述べるかどうか  
b テレビの暴力的な場面が実生活の反映であるかどうか  
c テレビで暴力的なアクションを見ることによって、人々がその生活において似たようなことをするようになるかどうか
- ③  
a 彼らの多くは誰が間違っただけの行動をとっているのかわかってないが、何が間違っているのかわかっている。  
b 彼らの多くは自分が不正な人間だとは思わないが、自分たちがそのような人間に悩まされていると思う。  
○ wicked 「不正な；悪い」  
c 彼らの多くは被害者側ではなく犯罪者側にいると考える。
- (3)  
① at a stretch 「一気に；連続して」  
④ with discrimination 「識別して；選択して」  
⑤ in the long term 「結局は；長い目で見れば」
- (4)  
④◇ What seriously concerned adults can never agree about 「本気で心配している大人が決して見解を一致できないこと」  
○ 主部になる名詞節。

- concerned 「心配した」
- ◇ precisely what harm television causes 「正確に言ってどのような害をテレビが引き起こすか」(補語になる名詞節)
- ⑥◇ not は後の feel にも続くことに注意する。
  - ◇ encouraged to do 「…するよう激励される」
  - ◇ knife 「(人) をナイフで刺す」
  - ◇ as a direct result 「直接の結果として」
- ⑦◇ The implications of this argument 「この主張が含意するもの」
  - ◇ as ~ as … 「…と同じくらい～」
  - ◇ the more familiar ones which claim to show a causal link between violent crime and TV shows 「暴力的犯罪とテレビ番組との間の因果関係を示そうというより耳慣れた主張」
    - ones = arguments
- ⑧◇ resist 「～に抵抗する」
  - ◇ the efforts of the TV companies to lure them in front of the screen 「彼らを(誘惑して) テレビの前にひきとめておこうとするテレビ局の努力」
    - to … は efforts を修飾する形容詞用法の to 不定詞。
    - lure 「～を誘惑する」

**全訳** .....

テレビは子供に良くない。このことは子供以外の誰もが一般に認めていることだ。⑨本気で心配している大人の間で決して見解が一致しないのは、正確に言ってテレビがどのような悪影響を及ぼすかという点である。

イギリスの文部省は、テレビ番組の多くが不道徳で狭い世界観を放映していると考えてそれを警告したある教師団体の報告書を発表した。彼らはテレビに出てくる安っぽい冗談や、気まぐれの暴力や、物質主義的な価値観、家庭内の対立、老人や身体障害者に対する軽蔑を特に憂慮していた。

オックスフォード大学のある教授が行った、さらに広範に渡る研究によると、テレビを何時間も立て続けに見ていると、子供は受け身的な生活態度をとったり、ほんやりとして不注意になってしまったりということが示唆されている。

これらは、長年のテレビの影響に関する議論に、ほんの最近付け加わってきたものである。過去においては、テレビに関する議論と言えば、テレビに登場する暴力は果たして実生活の暴力を助長するのかどうかということであった。初期の研究においては、その2つの間の関連性は証明されたということが示唆されていた。より最近の調査では、テレビの及ぼす悪影響はもっと微妙なものであるということが示唆されている。⑩10代の子供たちはテレビで殺人の場面を見たところで、その直接の結果として、誰かをナイフで殺してみたいという気にはならないのだ。

テレビで暴力的な場面をたくさん見る人々は、歪んだ狭い世界観を持ち、社会にはびこる暴力の量を非常に誇張して考えがちである。彼らの多くは、悪人ではなく被害者と自己を同一視する。そうした人々は困惑し、はびこる暴力を恐れ、ますます熱心に、取締りと法の施

行を当局側に望むようになる。㉔こうした主張が含意することは、ある意味で、暴力的な犯罪とテレビ番組との間には因果関係があるという、もっと耳慣れた主張が含意することとちょうど同じように危険である。それらは「法と秩序」を擁護しようとする強い圧力団体が警察力の強化を図ろうとしているこの国では、とりわけ重大な影響を持つのだ。

その報告書の中で教師たちは、番組製作者に、もっと社会的自覚を持ち、道徳的な面での指導者となるよう求めている。これを要求するのは簡単だが、実行するのははるかに難しいことだ。果たしてテレビ局はこの世の中には性交渉も暴力も存在しないふりをすべきなのだろうか。

こちらの方が有望な方法であるが、教師たちは、テレビを選別して見るよう子供たちに指導することに、もっと努力が費やされるべきだと言っている。その報告書の内容から判断すると、そうしたことを子供たちはすでにうまくやっているようだ。時代の最も健全な兆候の1つは、㉕10代後半の子供たちが、テレビの前に自分たちを誘い出そうとする、テレビ局の努力に明らかに抵抗している様子である。長い目で見れば、我々が最も望みをかけられるのは、テレビに対して一層見識があり、懐疑的で、時には皮肉でさえある視聴者を作るという努力にある。

**注**

- ℓ. 1 ◇ universally 「普遍的に；例外なく」  
◇ acknowledge 「～を認める」
- ℓ. 2 ◇ except by children 「子供たちによって以外」
- ℓ. 5 ◇ the amoral, narrow view of the world which they thought many TV programmes presented 「多くのテレビ番組が放映していると彼らが考えている不道徳で狭い世界観」
  - they thought (that) ～ の主節の部分の関係代名詞の後に挿入されたかのように見える構造。《連鎖関係代名詞節》
- ℓ. 6 ◇ be concerned about ～ 「①～に関係している ②～を心配している」  
◇ casual 「①偶然の ②思いつきの ③おぎなりの ④うちとけた；略式の」
- ℓ. 7 ◇ materialistic values 「物質主義的な価値観」  
◇ conflict 「衝突」  
◇ contempt 「軽蔑」  
◇ the old 「老人」
  - the + 形容詞：普通複数名詞の用法 (the handicapped も同様。= old people)
  - ◇ the handicapped 「身体障害者」
- ℓ. 8 ◇ A broader study by a professor of Oxford University suggests that … 「オックスフォード大学のある教授によるさらに広範に渡る研究は、…ということを示唆している」《直訳》→ オックスフォード大学のある教授によるさらに広範に渡る研究によって…ということが示唆されている《無生物主語構文》
  - ◇ watching TV for hours at a stretch creates in children a passive attitude and a habit of mindless inattention 「テレビを何時間も立て続けに見ることは、子供の中に受け身的な生活態度や、ぼんやりとした不注意な性質を作り出す」《直訳》
  - create と目的語の間に in children が入っていることに注意



- ℓ. 11 ◇ These are just the latest contributions to a lengthy debate 「これらは長年の議論へのほんの最近の貢献物である」《直訳》→ これらは長年の議論にほんの最近付け加わったものである
- ℓ. 12 ◇ Earlier studies suggested that ～《無生物主語構文》
- ℓ. 13 ◇ the link : 画面上の暴力と実生活上の暴力とのつながり。  
◇ subtle [sátl] 「かすかな」
- ℓ. 16 ◇ tend to *do* 「…する傾向がある」  
○ get a distorted ～ と (and to) have a highly ～ の両方に続く  
◇ distorted 「歪められた」
- ℓ. 17 ◇ highly 「非常に」  
◇ exaggerated 「誇張された」
- ℓ. 18 ◇ They become embarrassed, fearful of the spreading violence and so more and more eager to demand control and law enforcement from the side of the authorities 「そうした人々は困惑し、はびこる暴力を恐れ、そしてますます熱心に、取締りと法の施行を当局側に望むようになる」  
○ embarrassed 「困惑して；恥ずかしがって」  
○ fearful of the spreading violence 「はびこる暴力を恐れて」  
○ and so (become) more and more ～と動詞を補って考える。  
○ eager to *do* 「…したいと強く願う」  
○ enforcement 「執行」
- ℓ. 25 ◇ call for ～ 「～を必要とする」
- ℓ. 27 ◇ pretend that ～ 「～のふりをする」
- ℓ. 28 ◇ More promisingly 「もっと有望であるが」
- ℓ. 29 ◇ with discrimination 「区別して；選別して」  
◇ something which, to judge by comments in the report, children are already very good at doing 「その報告書の内容から判断すると、子供たちはすでにうまくやっていることである」  
○ to watch TV with discrimination に説明を加える部分。  
○ to judge by comments in the report : 条件を表す to 不定詞。
- ℓ. 30 ◇ One of the healthiest signs of the times is the way that ～ 「時代の最も健全な印の1つは～というやり方である」
- ℓ. 32 ◇ our best hope is in efforts to create a more well-informed, skeptical, and even at times cynical audience for TV 「我々の最大の望みは、テレビに対して一層見識があり、懐疑的で、時によっては皮肉でさえある視聴者を作りだす努力にある」《直訳》→ 我々が最も望みをかけられるのは、テレビに対して一層見識があり、懐疑的で、時によっては皮肉でさえある視聴者を作りだそうと努力することである  
○ skeptical 「懐疑的な」  
○ at times 「時には」  
○ cynical 「皮肉な」

## 【6】

### 解答

- (1) six thousand, six hundred and seventy-nine
- (2) one million, nine hundred and seventy thousand, three hundred and twenty-six
- (3) one-fifth [a fifth]
- (4) three-fifths
- (5) World War two
- (6) thirty degrees centigrade [Celsius]
- (7) fourteen (hundred and) ninety-two
- (8) five (minutes) to [before] nine
- (9) three point one four
- (10) three-three-two, four-one-nine-zero [-oh]

### 解説

今回は様々な数字の読み方に関する出題である。数字の読み方を知らないと、リスニング問題でもすぐに反応できないので不利になる。最低でもここに挙げたものについては、正しく読めるようにしておきたい。

- (1) (2) 英語ではコンマ (,) の通り、3桁ずつ区切って読む。
- (3) fifth 自体に「5分の1」の意味があるので、「5分の1」は「5分の1が1個」と考えて、one-fifth, または、a fifth とする。
- (4) (3) と同様、「5分の1が3個」と考えて、three-fifths となる（複数形の -s が付くことに注意）。
- (5) 「第2次世界大戦」は World War II (two), または、the Second World War と言う。
- (6) 「摂氏」を意味するのは centigrade[séntəgrəd], または Celsius [sélɪsɪəs]。「華氏」は Fahrenheit [fērənhaɪt]。
- (7) 年号は普通、2桁ずつ(10の位と100の位の間で)区切って読む。
- (8) 「X時Y分(過ぎ)」は Y (minutes) past [after] X (あるいは「時」と「分」の2つの数字を並べてXY), 「X時Y分前」は Y (minutes) to [before] X と言う。
- (9) 小数は「.」(point) を挿んで数字を1桁ずつ読んでいけばよい。
- (10) 電話番号も数字を1桁ずつ並べて読むのが普通。「0」は zero [zírəʊ], または、oh [óʊ] と読む。

## 【7】

### 解答

- |           |           |             |            |
|-----------|-----------|-------------|------------|
| (1) do    | (2) do    | (3) make    | (4) do     |
| (5) ride  | (6) make  | (7) shed    | (8) keep   |
| (9) make  | (10) make | (11) commit | (12) break |
| (13) have |           |             |            |

**解説**

- (1) 「計算をする」は、日本語同様、do sums が決まった言い方。
- (2) 「宿題をする」は do one's assignment, または、complete one's assignment (「宿題を仕上げる」という意味合い)。なお、assignment は可算名詞、homework は不可算名詞。
- (3) 「努力する」は make an effort, または、put forth an effort。
- (4) 「～に益を与える」は do good to ~ [do ~ good] (この good は名詞)。  
cf. Smoking does more harm than good. (喫煙は有害無益だ。)
- (5) 「自転車に乗る」は ride a bicycle, または、pedal a bicycle。  
「自転車にまたがる」の意なら、mount [get on] a bicycle。
- (6) 「お茶を入れる」は make tea が決まった言い方。
- (7) 「涙を流す」は shed tears [a tear]。
- (8) 「日記をつける」は keep a diary。これは「(継続的・習慣的に) 日記を書き続ける」の意であり、「日記を書く」という1回の行為には用いない。「昨日は日記をつけ忘れた」は I forgot to write in my diary yesterday. となる。
- (9) 「お金を儲ける」は make money, または、earn [gain] money。
- (10) 「間違える」は make a mistake がほぼ決まった言い方。
- (11) 「自殺する」は commit suicide が最も普通の表現。perform suicide でも可。(suicide は不可算名詞。)
- (12) 「約束を破る」は break one's promise が一般的な表現。repudiate [renege on] one's promise という言い方もある。
- (13) 「パーティーを催す」は have a party が最も普通だが、give [throw; hold; host] a party という言い方もある。

**[8]****解答・解説**

- (1) Did he say where he had met my father?  
「言っていましたか」という質問は Yes/No で答えられるため Did he say で始める。
- (2) Where do you think you are going?  
「何処に」という質問は Yes/No では答えられず do you think を挿入的に用いる。
- (3) The students were expected to complete a difficult if not impossible task.  
「不可能ではないが」の部分をも if not impossible という挿入句であることに気がついたかどうか。
- (4) I think you can find in this island the humane society we have forgotten.  
“in this island” をどこに入れるかを考える。
- (5) He made a perfect score on the math test and for that matter, he is a genius in math.  
for that matter 「そのことについて言えば」
- (6) He was increasingly critical of what he came to think was pseudo-science.  
“what ( he came to think ) was pseudo-science” と考える。いわゆる連鎖関係詞の形。

【1】

解答例

I wish you hadn't had such a bad cold because I'm sure we'd have enjoyed the classical music concert. (19 words)

It's your fault we couldn't go to the concert! Why did you have to go and catch a cold? (19 words)

If only you hadn't been careless enough to catch a cold, we could have gone to the concert and enjoyed ourselves. (21 words)

【2】

解答例

(1) 飛行機が完全に停止するまで座席から立たないでください。

Please remain seated [in your seats] until the aircraft has come to a complete stop.

(2) 日本の学生は日常会話の英語を学ぶ機会がないし、そういう英語をしゃべるチャンスがないと言われています。

It is said that Japanese students are not given the chance to learn how to conduct [hold] daily conversations in English, nor do they have the opportunity to speak the language.









会員番号	
------	--

氏名	
----	--